

豚革で上質スニーカー

国産靴の産業文化を伝えていくため、豚革の生産が盛んな墨田区の老舗業者が台東区の靴メーカーとタッグを組んで新ブランドを作り、19日から受注販売を開始する。第一弾は、カジュアルな着こなしにも似合う豚革の高級スニーカー。通気性が高く、蒸れにくいのが特徴だといわれている。

墨田の新ブランド「革童」

墨田区は古くから、原皮が業などの皮革関連業者が集積し、毛や脂を取り除く「産毛」している。ただし最近では後継



国産の豚革を使ったスニーカーづくりを始めた山口産業の山口社長（左）と東京靴研の恒次さん（墨田区で）

者難などに直面しており、都の統計資料「東京の工業」によると、2015年のなめし革製造事業所数は40社で、10年間で20社減った。また、製靴産業が盛んな台東区でも、メーカー数は同じ10年間で83社減の108社となっている。

1938年（昭和13年）に創業した墨田区の豚革メーカー「山口産業」の山口明宏社長（52）はこうした状況に危機感を抱き、知人で台東区の一東京靴研の恒次弘幸さん（37）らに相談。メンバー



受注販売を始める「革童」のスニーカー

きょうから受注販売 「国産の底力見せたい」

「国産品の底力を見せたい」（山口さん）との思いで一致し、新ブランド「革童」を設立した。商品化にあたり、輸入品に対抗しやすいとして、スニーカーを選んだ。

海外高級ブランドとも取引がある山口産業では、国外では高価格でも自然や環境に優しい製品が評価されていることを把握していた。「革童」のスニーカーはこうした発想のもと、広大な養豚場でストレスなく育った豚の皮を自然素材の薬品でなめして製造。価格は1足4万6800円（税別）からで、著名人らにサンプル品を贈り、PRに努めるといっている。

また、豚だけでなく、害獣駆除されたシカの皮を使ったスニーカーも販売する。山口さんは「国産の上質な靴を作り、次の世代にも技術をつなげていきたい。外国人富裕層にも選んでもらえる商品にできれば」と話している。

販売の受け付けは19日午後7時から、港区赤坂の東京ミッドタウン内「THE COVER NIPPON」で。20日以降は、午前11時～午後9時。問い合わせは山口産業（03・3617・3868）へ。